

エンゼル・小学校・中学校合同の避難訓練を実施しました！

5月12日(月)の9時30分に、南海トラフで海溝型の大地震が起きたという想定で、駅上広場まで遠方避難する訓練をエンゼル・小学校・中学校の合同で実施しました。田尻中学校の生徒の皆さんは、真剣に訓練に参加してくれました。想定通りの行動で大変素晴らしかったです。訓練結果は、先遣隊による駅上グランドまでの避難経路の安全確認完了が地震発生から15分後で、学校からの避難開始が17分後、中学生が駅上グランドへの避難完了が40分後でした。

今回の訓練は、駅上広場まで、0歳から15歳の子どもたちを避難させる場合に、どれだけの時間がかかるかを調べる訓練でもあり、小中学校から10名の教職員がエンゼルの子どもの避難誘導に参加して実施しました。エンゼルの子どもの全員が、津波の想定到達時間(83分)内に避難できました。ただし、避難経路が安全であった場合に限り、先遣隊による避難経路確認次第では、昨年度実施した校舎の3階から屋上へ垂直避難することもあわせて判断することになります。

**授業参観&PTA総会への参加ありがとうございました！**

大変な悪天候の中、5月17日(土)の土曜参観には、田尻町立中学校の72%にあたる163名の保護者の皆さまが来てくださいました。本当にありがとうございました。生徒たちが一生懸命に授業を受けている様子が見られたこととあわせて、保護者の皆さまの参観マナーがとても素晴らしく、来てくださったことに感謝の気持ちで一杯になりました。今年度は、2学期

にも授業参観を実施したいと考えていますので、次回もよろしくをお願いします。

また、参観後のPTA総会は、射場会長様、栗山副会長様、陳副会長様、武島副会長様による役員の方々が中心となって、無事に開催することができました。令和7年度は、妹尾会長様のもと、新役員にバトンタッチされました。私は、小学校でもお世話になった方々が進んで役員に立候補してくださいましたことに感謝しています。何年もお世話になった役員の方々が去られる寂しさと新しく田尻中PTAを支えてくださる方々への期待感とが交錯する複雑な気持ちになりましたが、こんなに素晴らしいPTAは他には無いと思っています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

**一学期の中間テストがんばりました！**

今年初めての中間テストが終わりました。お疲れ様でした。生徒の皆さんは、本当によく頑張りました。テストを受けている時の集中力は素晴らしかったです。さすが、田尻中の生徒です。特に、1年生の皆さんにとっては、テスト範囲の広さやテスト前の長時間の勉強など、初めて経験することばかりだったと思います。結果はいかがでしたか。卒業するまでに、何度も受けるテストです。地道に頑張ってください。努力したことは必ず点数につながります。応援しています。

クラブ活動頑張っています！

5月から1年生も加入して、クラブ活動がスタートしています。3年生と2年生が、新しく入部した1年生のために練習メニューを工夫して、基礎的な技術練習を中心に、頑張ってくれています。先日は、男女バスケットボールクラブが、第60回泉南郡市・阪南市中学校総合体育大会の1回戦が田尻中学校



体育館を会場に行われました。1年生の人たちは、先輩たちが、他校のクラブと真剣勝負する姿を見て、感動したことだと思います。私も精一杯の応援をさせていただきました。当日は、男女ともによく頑張り、見事に1回戦を突破しました。バスケットボールクラブの皆さんの自信にみちた表情を見て誇らしく思いました。

修学旅行に向けて準備が進んでいます！

田尻町立中学校は、昨年度から、平和学習を中心とした沖縄への修学旅行を実施しています。私自身、昨年度の修学旅行で初めて沖縄に行きました。沖縄は、80年前に太平洋戦争で地上決戦が繰り広げられた唯一の場所です。この時、民間人を巻き込んで23万人の尊い命が犠牲になりました。そして、この沖縄決戦では、県内にあった21の全ての中等学校・師範学校から生徒が動員され、多くの若者の命が奪われました。私は一人の教師として、この時に起こったことをしっかりと学んだ上で、沖縄の地を踏めたことを本当に良かったと思っています。今年も平和を願う気持ちを大切にする修学旅行にするため、事前の準備が進んでいます。世界中で、戦争や紛争が起こっている今だからこそ、平和の尊さを実感できる修学旅行になることを願っています。

同時に、沖縄に残る豊かな自然も体験してほしいです。ムルク浜ビーチのマリン体験など、沖縄の美しい自然と触れ合うことを通して、平和な世界を求め努力していける人になってくれることを願います。

**1・2年生の少人数指導(英語・数学)について！**

今年度は、大阪府教育庁から少人数指導教員の加配をいただいで、1・2年生の英語科と数学科で実施しています。実施方法は、主担者と副担者によるチームティーチング方式と、学級を二分割して少人数で行う分割方式があります。教科書の内容や生徒たちの学びに合わせて分割授業を実施していきます。全ての生徒が学習内容をより理解できるよう取り組んで参ります。
(校長 池本 勝利)

今後の予定

6/3(火)	【2年生対象者】貧血検査
6/5(木)	【1・3年生】歯科検診
6/6(金)	尿検査(二次対象者)
6/8(日)	【3年生】修学旅行前日指導(登校日 給食なし)
6/9(月)	【3年生】修学旅行(～11(水))
6/12(木)	【3年生】代休 【2年生】歯科検診
6/13(金)	【1年生】校外学習(万博見学)
6/18(水)	テスト一週間前
6/20(金)	尿検査(二次対象者)
6/25(水)	期末テスト(～27(金)) ※6/25・26は給食なし
6/30(月)	【対象者】胸部 X 線撮影
7/1(火)	5限後下校
7/3(木)	【3年生】租税教室
7/10(木)	5限後下校
7/14(月)	期末 三者懇談会(～17(木) 給食なし)
7/18(金)	1学期 終業式
7/22(火)	夏季休業 開始 ※2学期始業式…8/25(月)
8/6(水)	平和登校日(午前中)

稲作の歴史にみる日本の食糧事情

最近のニュースといえば、米に関することが一番に挙げられます。流通量の不足に端を発し、米の消費者販売価格がみるみる上昇し、出荷されてもすぐに店頭からなくなり、各地の米穀店が倒産する事態も出てきています。

農林水産省は、政府備蓄米の放出に踏み切りましたが、入札から精米に至る過程が円滑に進まず、米価は高値を横ばいの状態。新大臣が低価格での提供を明言し、今週になって5kgが2000円前後で販売されるようになりました。



本来、お米は長期保存が可能であるため、縄文時代後期に日本に稲作が伝来して以来、現代で言

えばお金と同じ「財産」として重宝され、長い間、日本の歴史とともに全国各地で生産されてきました。

江戸時代は収穫高を「石高」として評価し、その土地をどれだけ支配しているかが大名(武士)の支配力(財政の基盤)を示していました。「加賀藩(石川県)100万石」と言われた前田氏は長く栄華を築きました。



時には自然災害(干害や冷害、火山の噴火など)によって不作になり、たびたび飢饉に見舞われたこともあります。享保・天明・天保の大飢饉は江戸の三大飢饉と呼ばれ、米価が急騰し、餓死者も多くなりました。享保の飢饉を受けて、八代将軍・徳川吉宗はその後サツマイモの栽培を奨励しました。

明治時代に入り、地租改正が行われると、収穫高を地価として金銭表示し、地価の3%(のち2.5%)を現金、納付する時代へと移り変わりましたが、米の需要や生産量は変わらず高いものでした。

別の表現をすると農地への用水確保は最重要課題でした。ため池の築造や用水路の管理は村で徹底して行われました。雨の少ない地域では、一本の線香を用いて、線香の火がついている時間だけ自分の田に水を入れられるというルールもあったそうです。



昭和時代に入り、第二次世界大戦(1945年終戦)後、日本人の食生活は大きく変わりました。「食の欧米化」に伴い、パンや麺類の消費増加によって米の消費量が減少し始めました。米

は日本国内で余るようになってきました。政府は減反政策を実施し、米作農家に対して一定の金額を給付することで米の生産量を調整しました。

一方で、東北や北陸を中心に米の「ブランド化」が進み、外国産の低価格の米に対して、「高くてもおいしく」を目指して品種の改良が進められました。近年は、夏の異常な高温で収穫量が下がっているため、それに対応する研究も盛んにおこなわれています。

しかし、若い世代の多くは第三次産業(販売等のサービス業)へと移行し、自然を相手に大変な労力を必要とする第一次産業(農林水産業)の担い手が極端に少なくなっているのが現状です。「高齢化」や「担い手不足」が原因で農家がどんどん少なくなっています。耕作放棄地が増加し、日本の農業は衰退の一途をたどっているともいわれます。

一方で、株式会社を設立し、耕作放棄地を収集して、企業的な大規模農業を始める若い人も出てきました。ようやく、日本の農業に魅力を感じ、休日を確保しながら一定水準の収入を得られる事業も出てきたそうです。



農林水産省によると、令和5年現在、いわゆる日本の食料自給率は38%です。米の自給率は99%、主食用の穀物は63%だそうです。米はほぼ自給可能であるはずなのに、今、店頭には不足の状態が続いています。米の流通状態について詳しくは把握できていませんが、ここで言えることは、国内の需要に対して生産量が十分に達していても、私たちに十分に行き渡らない危険が生じるということです。輸出入を含めた流通や生産調整の政策についても検討が必要になってくるのではないのでしょうか。

今、私たちは生産者から流通業者を通じて食を確保しています。特に食事に関しては、大豆やトウモロコシ、肉類に至っては外国からの輸入に頼らなければ、外食を含めた食の安全保障は成立しません。近年の度重なる天候不順や戦争が続くと、食糧危機はすぐに訪れます。それは、先進工業国であっても決して安心はできません。

今回、食の問題について、消費者として生産者とどう向き合っていくべきか、日本の食糧事情について海外とどう調整を図っていくべきかなど、改めて考えさせられました。



(教頭 横井武志)